

## 歯科衛生士のための歯周治療ガイドブック

キャリアアップ・認定資格取得をめざして

島谷和恵



A4 判/170 頁  
定価 6,090 円  
(本体 5,800 円+税5%)  
医歯薬出版刊  
(2009 年 9 月発行)

このたび、本書が特定非営利活動法人日本歯周病学会編集で発行されたことに、執筆者の先生方の歯科衛生士に対する熱い期待を感じ、励まされ、心から感謝しています。

近年の歯科医療は多様化し、全身疾患との関連も重視されるなかで、これまで歯周病患者に対してはあまり行われてこなかった複雑な補綴処置やインプラント治療が選択肢に含まれるようになりました。また、患者さんが歯科に関する情報にふれる機会も多くなり“デンタルIQ”が高くなる一方で、歯周疾患の有病者率はいまだ改善されていません。このような環境下で患者さんの信頼に応えることができるプロフェッショナルな歯科衛生士を養成するために、日本歯周病学会では、2005年に認定歯科衛生士制度を発足しました。2009年10月20日現在、719名の認定歯科衛生士が誕生し、その数は増え続けています。

私は33年間事業所の歯科に勤務しているため、転勤などで転院して来られる患者さんを担当する機会があります。意識の高い患者さんでは、メンテナンスの重要性を理解し、

定期的に受診している方も多いですが、ときに明らかに取り残しの歯石が歯周組織の状態に影響を及ぼしている症例に遭遇することがあります。患者さんのこれまでの努力や想いを考えると事実を話すことができない悲しさがあり、歯科衛生士として技術・知識を向上させていくことの重要性を切に感じます。

本書は、認定資格取得を目指す歯科衛生士を対象としていますが、受験する・しないにかかわらず、歯周治療にかかわる歯科衛生士すべてに求められる知識・技術等が豊富に解説されています。「歯周治療における歯科衛生士の役割」という概念的な解説だけでなく、「医療面接と検査」から「SPTとメンテナンス」までが歯周治療の流れに沿って解説され、歯科衛生士が関与する実践的な知識が網羅されています。加えて、さらなる広がりを見せるインプラント治療や糖尿病をはじめとする全身疾患、加齢と歯周病の関連についての情報も掲載されています。そして、最終章には、症例のまとめ方と発表方法が、誤った症例発表の例などとともに記載され、認定試験の受験者に役立つものとなっています。

臨床に直接かかわらない歯科衛生士であっても、歯科衛生士免許をもっている以上は歯周疾患に関する情報が不足していたり不明瞭では、能力に疑問を抱かれる心配があります。少なくとも本書に記載された歯周治療の流れを理解し、情報を発信していただききたいと思います。フルカラーで図や写真も豊富な本書は大変読みやすく、ぜひ手元に置きたい1冊です。